

★高円寺図書館は、今年開館50周年です!★

高円寺図書館

2017年8月号



桃園川 1920(大正9)年頃 [杉並区役所広報課提供]

杉並区立高円寺図書館

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-36-25

電話 03-3316-2421

《最近入った本》

書名、編著者、出版者等	内 容
『ようこそ、認知症カフェへ』 (武地一、ミネルヴァ書房)	認知症の人とその家族だけでなく、誰もが参加できる場、認知症カフェ。必要な基礎知識や心得、各地の事例などを紹介。
『乱歩と清張』 (郷原宏、双葉社)	ミステリー界の大御所・江戸川乱歩と松本清張の足跡をたどり、目指したものは何だったのかを探る知的探求の書。
『異名・ニックネーム辞典』 (杉村喜光編著、三省堂)	動植物の名前から人命・地名にいたるまで、名の意味や由来、使用域などを説明した辞典。
『世界スタジアム物語』 (後藤健生、ミネルヴァ書房)	なぜスタジアムが建設され、そこで何が起こったのかを振り返り、20世紀を読み解く。
『魅惑の万華鏡』 (照木公子、日東書院本社)	万華鏡の小宇宙の映像、仕組み、作り方を紹介。四角いボックスの不思議アートのぞき箱も収録。
『「赤ちゃんポスト」は、 それでも必要です。』 (田尻由貴子、ミネルヴァ書房)	妊娠や子育ての相談活動を続ける著者が「赤ちゃんポスト」の存在意義や問題点などを自らの体験とともに綴る。
『「うつわ」を食らう』 (神崎宣武、吉川弘文館)	碗や皿の形態の歴史を追い、他地域との調理法の比較から、日本の食文化の形成をたどる。

『「香り」の科学』 (平山令明、講談社)	自然の香りや人が作りだしてきた香りとは？アロマセラピーなどの香りは人体にどのような影響を与えるのか？香りの神秘を最新科学で解き明かす。
『包丁』 (信田圭造、ミネルヴァ書房)	堺特産の料理包丁などの製造販売を行う堺刀司七代目が歴史をたどりながら包丁のあれこれを語る。日本列島刃物産地巡りの旅も収録。

＜8月の行事・展示＞ ※展示されている本は借りられます。

◎特別行事・展示

名称・テーマ等	場所・日程等	内 容
被爆体験伝承講話の会	20日(日) 午後2時～3時15分 1階講座室 [対象]小学3年生以上 [定員]30名(申込順)	被爆者から被爆体験や平和への思いを受け継いだ伝承者の語りを聴く会です。
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展	14日(月)～22日(火) 午前9時～午後5時1階講座室 ※17日(休館日)と20日講話の会の時間は見られません。	広島平和記念資料館所蔵の写真展示です。会場で、被爆体験等をつづった被爆者の手紙を朗読したラジオ番組の収録CDをお聴きいただけます。

ヒロシマ・ナガサキとは	2階一般展示コーナー	どれだけ年月が流れても忘れられない、忘れてはいけないことを伝える本を展示しました。
戦争	2階児童読み物コーナー	なぜ戦争をしてはいけないのか？子どもたちにも伝えていきたいこと・・・そんな本を集めました。

◎その他の行事・展示

名称・テーマ等	場所・日程等	内 容
科学あそびの会	5日(土)午後2時～3時30分 1階講座室	開いていくと、どんどん絵が変わる仕掛けのある箱を作ります。(見本は2階カウンターにあります)
※受付終了		
図書館を使った調べる学習コンクール入賞作品展	2階 YA 展示コーナー 8日(火)～14日(月)	第18回(平成26年)入賞作品の複製を展示します。
おばけとおこわい話	2階児童絵本コーナー	夏といえばこれ！ちょいコワ、おこわ、いろいろと取りそろえていますよ!!!
育父部(いくちぶ)おすすめのえほん	2階児童コーナー	子どもに読み聞かせをしているグループのお父さんが、おすすめる絵本を展示しています。

最近の新聞記事から

朝日新聞朝刊 7月8日付折り込み『be』の「みちのものがたり」で、仁淀川(によどがわ)が紹介され、宮尾登美子(1926～2014)が取り上げられました。『序の舞』で直木賞を受賞し、大河ドラマ「義経」や「篤姫」の原作者であり、映画やドラマになった多数の作品を著しました。

この作家が杉並と関連があるのをご存知でしょうか。敗戦で満州から命からがら引き上げ、高知県の夫の実家にいましたが、離婚。その後、再婚しましたが、借金などに苦しめられ、夜逃げ同然に無一文で上京し、最初に住んだのが杉並だったのです。

杉並から転居してまもなく、自伝的作品『權』で太宰治賞を受賞し、女流作家としての地位を確立していくことになります。

高円寺図書館でも下記の本を所蔵していますので、興味のある方はご利用ください。

【宮尾登美子作品】

- ・『權』 筑摩書房、新潮文庫 / ・『仁淀川』 新潮社、新潮文庫
- ・『陽暉楼』 文春文庫 / ・『寒椿』(大活字本) 埼玉福祉会
- ・『一絃の琴』上中下(大活字本) 埼玉福祉会
- ・『女のあしあと』(大活字本) 埼玉福祉会
- ・『序の舞』全4冊(大活字本) 埼玉福祉会
- ・『篤姫の生涯』 日本放送出版協会 / ・『きのね』上下 新潮文庫
- ・『天璋院篤姫』上下 講談社、講談社文庫
- ・『蔵』上下 中公文庫 / ・『クレオパトラ』上下 朝日新聞社
- ・『菊籬(きくまがき)』 文藝春秋 / ・『はずれの記』 角川書店
- ・『お針道具』 新潮社 / ・『宮尾本 平家物語』全4冊 文春文庫
- ・『天涯の花』 集英社 / ・『平家物語の女たち』 朝日新聞社
- ・『きものがたり』 世界文化社 / ・『湿地帯』 新潮文庫
- ・『義経』 日本放送出版協会 / ・『錦』 中央公論新社、中公文庫
- ・『めぐる季節を生きて』 講談社

【閑話休題 岩波文庫】

日本初の文庫・岩波文庫が創刊90周年ということで、新聞等で記事が掲載されていました。高価な存在だった本、それも古典を読みやすい形にして廉価で提供し、手軽に読めるようにしたことは、特に地方で知識を渴望し、読書を求めた青年層に大きな影響を及ぼしました。

文庫巻末に岩波書店創業者・岩波茂雄の発刊辞「読者子に寄す」が掲載されています。この起草者は哲学者・三木清(1897~1945、治安維持法で逮捕。8月15日敗戦後も釈放されず、獄死)です。三木は高円寺・阿佐ヶ谷に居住し、荻窪にある国指定史跡の近衛文麿元首相の別荘・荻外荘にも出入りしていた杉並を代表する知識人でした。

高円寺図書館では下記の関連資料を所蔵しています。

【岩波茂雄関連】

- 『岩波茂雄への手紙』 飯田泰三監修 岩波書店
- 『岩波茂雄伝』 安倍能成 岩波書店
- 『岩波茂雄』 中島岳志 岩波書店
- 『岩波茂雄と出版文化』 村上一郎 講談社
- 『惜櫟荘(せきれきそう)だより』 佐伯泰英 岩波書店
- 『物語 岩波書店百年史』全三巻 岩波書店

【三木清著作】

- 『哲学入門』 岩波書店
- 『読書と人生』 講談社
- 『三木清集 近代日本思想大系27』 筑摩書房

【杉並在住の作家等の岩波文庫作品】

- 『井伏鱒二全詩集』、『自選谷川俊太郎詩集』、『川端康成随筆集』
- 『放浪記』 林芙美子 / ○『富岳百景・走れメロス』 太宰治
- 『蟹工船 一九二八・三・一五』 小林多喜二
- 『M/Tと森のフシギの物語』、『大江健三郎自選短篇』 大江健三郎
- 『小説の方法』、『小説の認識』 伊藤整

【表紙の写真から】

6月30日付産経新聞「地名の由来・高円寺」という記事で、桃園川が取り上げられました。天沼の弁天池を水源とし、神田川に合流するこの川は、周辺に桃の木が多かったことから名付けられたようです。ちなみに江戸時代には桃の実だけでなく、葉が入浴剤として用いられ、幕府に年貢として納められてもいました。

灌漑用水として利用されてきましたが、水田が無くなり、川底の浅い川であったので水害が度々起きたことから、1960(昭和35)年からの河川改修工事によって暗渠となりました。

現在は、緑道や公園として、区民の散策の場となっています。

【参照】

- ◎『杉並歴史探訪』 森泰樹 杉並郷土史会
- ◎『杉並風土記 中巻』 森泰樹 杉並郷土史会
- ◎『地形を楽しむ東京「暗渠」散歩』 本田創編著 洋泉社



現在の桃園川

＜高円寺図書館カレンダー＞

8 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 お話会	3	4	5 科学あそびの会
<u>6</u>	⑦ 休館日	8	9 赤ちゃんタイム お話会	10	<u>11</u>	12
<u>13</u>	14	15	16 お話会	⑰ 休館日	18	19
<u>20</u> 被爆体験 伝承講話	21	22	23 お話会	24	25	26 お話会
<u>27</u>	28	29	30 お話会	31		

○・・・休館日 下線・・・午後5時閉館

【開館・貸出時間】 月曜～土曜…午前9時～午後8時

日曜・祝日…午前9時～午後5時

【休館日】（祝日と重なったときは翌日が休館日となります。）

第1月曜日・・・高円寺は休館ですが、中央他区内6館は開館しています。

第3木曜日・・・全館休館日です。

9 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
<u>3</u>	④	5	6	7	8	9
<u>10</u>	11	12	13	14	15	16
<u>17</u>	<u>18</u>	19	20	⑳	22	<u>23</u>
<u>24</u>	25	26	27	28	29	30